

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3052950号

(45) 発行日 平成10年(1998)10月13日

(24) 登録日 平成10年(1998)7月29日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I

B 6 5 D 1/02

B 6 5 D 1/02

A

評価書の請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平9-12018

(22) 出願日 平成9年(1997)12月29日

(73) 実用新案権者 000145910

株式会社尚山堂

東京都豊島区南池袋3丁目16番8号 富洋
ビル池袋

(72) 考案者 杉浦 仁

東京都東村山市久米川町3-34-24

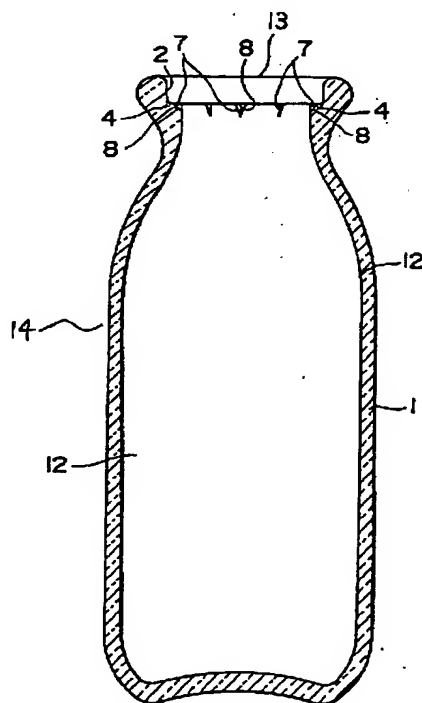
(74) 代理人 弁理士 内田 重治

(54) 【考案の名称】 広口壺

(57) 【要約】

【目的】 壺口部内側壁に牛乳等の流動物の付着の少ない包装容器としての広口壺と紙蓋の打栓嵌着の際生じる滑りも防いで作業効率の低下も防止でき、又飲用者には不快感を与えず安心して飲用できる衛生的な広口壺を提供することを目的とする。

【構成】 広口壺主体1の壺口部内側壁2に紙蓋3を受け
る紙蓋受用段部4を設け、前記段部4を略同一平面に形
成すると共に前記段部4に外縁部5を残存して複数の楔
状の切り欠き部7を形成し、この切り欠き部7を切り欠
いた前記段部4を壺体内部に向つてテーパー状に降下さ
せた構成



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 広口壺主体1の壺口部内側壁2に紙蓋3を受ける紙蓋受用段部4を設け、前記段部4を略同一平面に形成すると共に前記段部4に外縁部5を残存して複数の楔状の切り欠き部7を形成し、この切り欠き部7を切り欠いた前記段部4を壺体内部に向つてテーバー状に降下させてなる広口壺

【請求項2】 請求項1記載の切り欠き部7の形状をV字状とし、この切り欠き部7を切り欠いた紙蓋受用段部4を壺体内部に向つて降下させたことを特徴とする広口壺

【請求項3】 請求項1記載の切り欠き部7の形状を多角形とし、この切り欠き部7を切り欠いた紙蓋受用段部4を壺体内部に向つて降下させたことを特徴とする広口壺

【請求項4】 請求項1記載の切り欠き部7の形状を太線状とし、この切り欠き部7を切り欠いた紙蓋受用段部4を壺体内部に向つて降下させたことを特徴とする広口壺

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の広口壺の縦断面図

【図2】 本考案の広口壺の平面図

【図3】 図2の拡大平面図

【図4】 図2のA-A線の縦断面図

【図5】 本考案の広口壺に紙蓋を打栓嵌着した状態を示す縦断面図

【図6】 本考案の他の実施例を示す平面図

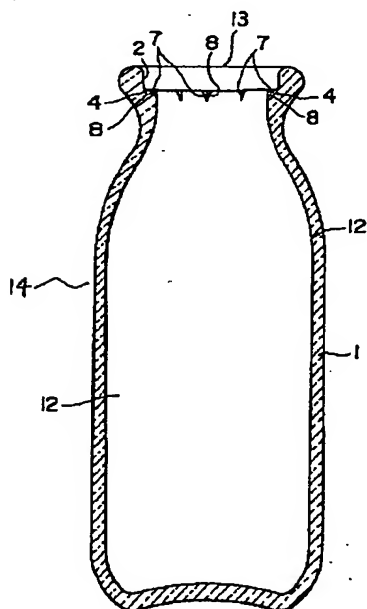
【図7】 本考案の他の実施例を示す平面図

【図8】 本考案の他の実施例を示す平面図

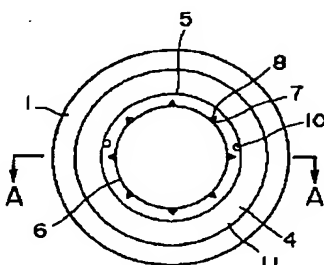
【符号の説明】

1……広口壺主体	2……壺口部内側壁	3……紙蓋
4……紙蓋受用段部	5……外縁部	6……内縁部
7……切り欠き部	8……溝	9……辺
10……牛乳	11……隅部	12……壺体内側壁
13……開口部	14……広口壺	

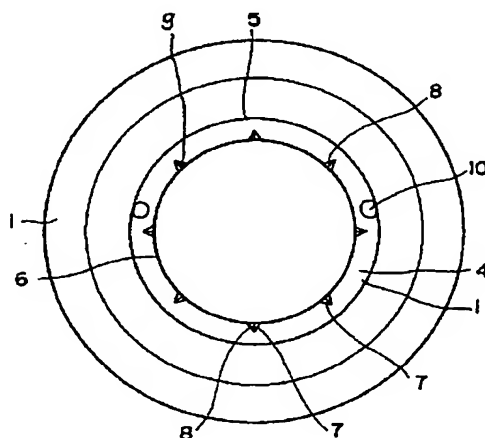
【図1】



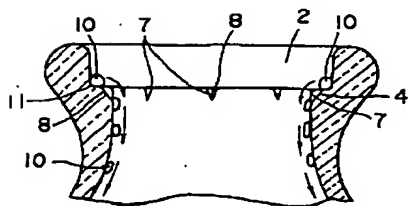
【図2】



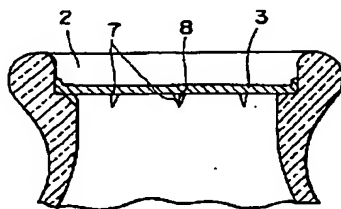
【図3】



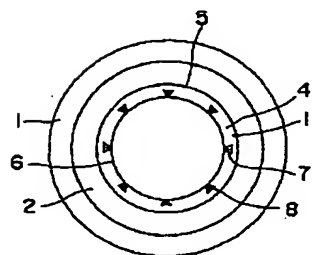
【図4】



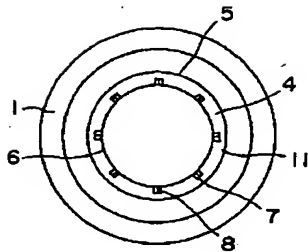
【図5】



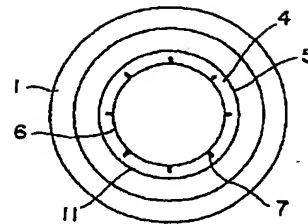
【図6】



【図7】



【図8】



【手続補正書】

【提出日】平成10年4月28日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項2】前記切り欠き部7の形状をV字状とし、この切り欠き部7を切り欠いた紙蓋受用段部4を壘体内部に向つて降下させたことを特徴とする請求項1記載の広口壘

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項3】前記切り欠き部7の形状を多角形とし、この切り欠き部7を切り欠いた紙蓋受用段部4を壘体内部に向つて降下させたことを特徴とする請求項1記載の広口壘

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項4】前記切り欠き部7の形状を太線状とし、この切り欠き部7を切り欠いた紙蓋受用段部4を壘体内部に向つて降下させたことを特徴とする請求項1記載の広口壘

【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は広口壺に関する考案で、主に牛乳・清涼飲料等の流動物を充填し、紙蓋を打栓嵌着して、運搬・販売するガラス壺に関する考案である。

【0002】**【従来技術】**

従来、この種の広口壺は壺口部内側壁に紙蓋を受ける段部を設けた広口壺に牛乳・清涼飲料等の流動物を充填機構で充填し、しかる後搬送機構の終了段階に設置される打栓嵌着機構で紙蓋を段部に打栓嵌着して密栓状態の包装容器として使用している。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

従来、牛乳等の処理工場では広口壺に牛乳・清涼飲料等の流動物を充填し、壺口に打栓する際充填機構から次工程の打栓嵌着機構に搬送するのにはコンベアによる搬送機構を利用している。しかしながら、牛乳・清涼飲料等の流動物を充填し、壺口を開放したまま搬送する為にコンベアの作動による振動で壺内に充填された牛乳・清涼飲料等の流動物が揺れ動き、その流動物の一部が跳ね上がり紙蓋を打栓嵌着したときに受ける平面状の段部にその粘着性で付着し、即ち前記飲料等の流動物が壺口内側壁と段部との隅部に付着し易い。かかる場合に前記段部に残留した牛乳・清涼飲料等の流動物が紙蓋の裏面に付着して腐敗等の変化を生じ飲用者に不快感を与えたり或いは残留する前記飲料等の流動物自体の表面張力によつて滑り現象を生じ、打栓嵌着の際紙蓋が滑ることが生じ打栓嵌着が出来にくいことが起きて作業効率をも低下させているのが現状で、これらの課題の解決が望まれている。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

本考案は上記の課題を解決するために為されたもので、
広口壺主体 1 の壺口部内側壁 2 に紙蓋 3 を受ける紙蓋受用段部 4 を設け、前記段

部 4 を略同一平面に形成すると共に前記段部 4 に外縁部 5 を残存して複数の切り欠き部 7 を形成し、この切り欠き部 7 を切り欠いた前記段部 4 を壘体内部に向つてテーパ状に降下させた手段により課題を解決する。

【0005】

【実施例】

本考案の広口壘を図面に従つて説明すると、図 1 は本考案の広口壘の縦断面図で、図 2 は本考案の広口壘の平面図で、図 3 は図 2 の拡大平面図で、図 4 は図 2 の A-A 線の縦断面図で、図 5 は本考案の広口壘に紙蓋を打栓した状態を示す縦断面図で、図 6 乃至図 8 は本考案の他の実施例を示す平図面である。

本考案は牛乳・清涼飲料等の流動物を充填する広口壘の壘口部に紙蓋を打栓嵌着して使用する壘の口部を改良したもので、図 5 に示すように広口壘主体 1 の壘口部内側壁 2 に紙蓋 3 を受ける紙蓋受用段部 4 を設けてある。前記段部 4 は略同一平面に形成され、しかも外縁部 5 が残存するように構成され、前記段部 4 の内縁部 6 には放射状に切り欠き部 7 が構成されている。前記切り欠き部 7 を切り欠いた前記段部 4 と段部 4 に付設した溝 8 や辺 9 も壘体内部に向かつてテーパ状に降下させてある。

【0006】

本考案は上記のように構成されるから牛乳処理工場等で広口壘 1 4 の開口部 1 3 から牛乳 1 0 を定量充填して、コンベア上を次機構の打栓嵌着機構に搬送する。コンベア上の移動の際、発生する振動は広口壘 1 4 にも伝播する。

この時広口壘内の牛乳 1 0 が飛び跳ねて前記段部 4 に一時付着しても、前記のようにコンベア移動中に振動を利用して切り欠き部 7 を切り欠いた前記段部 4 と段部 4 の溝 8 や辺 9 に牛乳 1 0 を集め、図 4 に示すように切り欠き部 7 のあるテーパ状の前記段部 4 がら壘体内側壁 1 2 を伝わつて壘体内部に戻し溜める。次の打栓嵌着機構では図 5 に示すように紙蓋 3 を略同一平面に形成した外縁部 5 のある前記段部 4 に打栓嵌着して壘体の開口部 1 3 を密栓状態にすることができるので、包装容器としての広口壘 1 4 を取得できる。

尚、紙蓋受用段部 4 に設ける切り欠き部 7 の形状は楔状に限らず、図 6 に示すように V 字形状を切り欠き部 7 の形状として、紙蓋受用段部 4 に設けてその中央部

に溝 8 を付設すれば前記のようにコンベア上の移動中に振動により広口壘 1 4 内の牛乳 1 0 が飛び跳ねて前記段部 4 に一時付着しても、振動により前記段部 4 と段部 4 に付設した溝 8 等に牛乳 1 0 を集めて前記段部 4 等から壘体内側壁 1 2 を伝わって壘体内部に戻し溜められる。図 7 に示す多角形の形状や、図 8 に示す太線状の溝でも前記同様にして壘体内部に牛乳 1 0 を戻し溜められるのでその目的を達成することができる。

【0007】

本考案の広口壘を使用するには、予めガラス壘製造工場で本考案に係る広口壘を製造準備し、牛乳処理工場のある乳業メーカーの牛乳・清涼飲料等の流動物の充填・包装製造工程（壘装ライン）で本考案の広口壘を使用することが望ましい。

【0008】

【効果】

本考案は上記のような構成からなるので、牛乳処理工場等では壘口部内側壁に牛乳等の流動物の付着の少ない包装容器としての広口壘と紙蓋の打栓嵌着の際に生じる滑りも防いで作業効率の低下も防止でき、又飲用者には不快感を与えず安心して飲用できる衛生的な広口壘を提供できるという効果を奏する。